

Ⅱ 学校経営

1 学校教育目標

(1) **心ゆたかで 自ら学ぶ たくましい子の育成** **～ 笑顔いっぱい、楽しい学校 ～**

(2) ○思いやりのある子 ○自ら学べる子 ○健康でがんばる子

(3) 合い言葉 (た)のしく (か)しこく (た)くましく

2 学校経営方針

(1) **基本方針『 安心・安全で、信頼される学校 』**

児童・職職員に対して、心と体の安心・安全が確保されると共に、保護者・地域や関係機関から信頼される学校を目指す。

(2) 具体方針

- ①児童が「何のために学ぶのか」を考え、わかったを実感できる授業の工夫に努める。
- ②問題の未然予防を重視した発達支持的生徒指導の実践に努める。
- ③危機管理と環境整備に努め、安心・安全な学校づくりを推進する。
- ④保護者、地域、関係機関との連携を深め、地域に根ざした信頼される学校づくりを推進する。
- ⑤楽しくやりがいのある職場環境の中で、教職員一人一人の個性を生かした組織的で活力のある学校づくりを推進する。

3 本年度の努力点

(1) **確かな学力の向上**

①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- ・基礎基本の定着を図ると共に、児童が「何のために学ぶのか」を考え、わかったを実感できる授業を目指す。
- ・「はばたく」群馬の指導プランⅡ」「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT 活用 Version」等を活用し、指導と評価の一体化を充実させた授業改善を行うことで学力の向上を図る。
- ・必然性のある課題設定により体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、既習事項の活用を図り、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ・児童一人一人の個性や学習進度、学習到達度等に応じた指導方法・指導体制を整え「指導の個別化」を目指す。
- ・探求的な学習や体験活動を通じ、他者と協働して学習を進める中で、相手を価値ある存在として尊重し、様々な立場の人と共生して持続可能な社会の創り手となることができる資質能力を育成する。
- ・「音読・漢字・計算」を基本とした家庭学習の充実を図る。

②外国語科・外国語活動の充実

- ・中学校からの兼務教員、ALT 等の積極的な活用を通して、楽しみながら体験的に外国の言語や文化についての理解を深める。
- ・Funenglish の充実 に努め、英語の楽しさが実感できる授業を目指す。

③情報活用能力の育成

- ・ICT 活用を日常化し、情報活用や ICT リテラシーの定着を図る。
- ・プログラミング学習を確実にを行い、論理的思考の育成を図る。

④学校図書館の利活用

- ・各教科等と年間指導計画に位置付け、学校図書館を計画的に利用してその機能の活用を図り、児童の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。
- ・ノーメディア読書デーを推進し、読書習慣を身に付け、文章に親しむ態度を育成する。

(2) 豊かな人間性の育成

①発達支持的生徒指導の充実

- ・日々の授業や行事等、学校生活において「4つの視点」自己存在感の感受・共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安心安全な風土の醸成を意識した取組を行い、「自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す」児童の育成を図る。
- ・温かい人間関係を構築し、互いに認め合い、高め合える学級経営や異学年交流としての縦割り班活動の充実を通して、学校・学級が楽しく心地よく生活できる居場所づくりを工夫する。
- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の充実を図り、計画的・組織的にいじめ防止活動を推進する。

②体験活動・ふるさと学習の充実

- ・児童の自主性、協働性を重視した体験活動を実践する。
- ・地域の人々や文化、自然及び世界遺産である富岡製糸場をはじめとした地域に関わる教材を取り入れた学習を各学年の指導計画に教科横断的・系統的に位置付けて行い、郷土を愛し、地域に感謝する児童を育成する。

③道徳教育の充実

- ・「特別の教科 道徳」の目的と意義を的確に捉え、道徳の授業を要とした道徳教育を推進し、児童の感性を高め、たくましさや優しさを兼ね備えた豊かな情操を育成する。
- ・心の教育を充実させ、自立と共生に向けての主体性や社会性の育成をする。

④キャリア教育の推進

- ・キャリア教育の視点を意識した指導により、自尊感情を高め、自らの将来や自分らしい生き方に目を向ける機会を充実させ、夢や希望をもち、自ら未来を切り開こうとする態度を育成する。
- ・キャリアパスポートを利活用し、児童の発達段階に応じたキャリア教育を実現する。

(3) 健やかな体の育成

①基本的な生活習慣の定着

- ・家庭と連携した「早寝・早起き・朝ご飯と毎日の運動習慣」を推進する。

②体力向上

- ・学校体育、学校保健を充実することで体力の向上を図り、生涯にわたり運動やスポーツに親しみ心身の健康を保持増進する。

③食育指導の充実

- ・健康教育や食育の充実により、基本的な生活習慣や望ましい食習慣の定着を図る。
- ・学校保健委員会を中核とした保護者への啓発を行う。

④熱中症対策とアレルギー対応

- ・熱中症対策の推進と、「個別取組プラン」の作成による食物アレルギー対応の充実を図る。

(4) 学校経営の充実と改善

①安心・安全な学校づくりへの取組

- ・登下校時の交通安全、不審者対応等、地域や関係機関と連携した取組を推進する。
- ・学校安全マニュアルを常に見直し、共通理解を通して危機管理を徹底する。
- ・学校施設 設備や通学路の安全点検を徹底し、問題点に対して迅速に対応する。
- ・児童のSOSの出し方教育、危険予測回避能力の育成、熱中症予防、アレルギー対応の充実を図る。
- ・困った時に、安心していつでも児童が相談できる見守り体制、相談体制を整える。

②特色ある教育課程の編成・実施

- ・教育課程や地域の実態に応じた特色ある教育課程を、PDCAサイクルを通して改善し、より良い教育にしていく。
- ・教育課程の評価に繋がる学校評価項目の設定と、評価結果に基づく教育課程の改善を行う。

③情報共有と組織的な取組

- ・職員一人一人が役割を自覚し、学力向上やいじめ、不登校の防止や解消等に組織的に取り組む。
- ・児童の気になる様子を見逃すことなく教職員で情報共有し、組織として対応する。
- ・報告・連絡・相談（ほうれんそう）＋確認を徹底し、適切かつ迅速な初期対応を組織的に行う。

(5) 教職員の資質能力の向上

①教職員研修の充実

- ・校内研修を核とした職員研修を推進し、資質・能力や指導力の向上を高める。
- ・授業参観・授業検討会を通じた日常的な授業力の向上を図る。
- ・互いに支え高め合う同僚性溢れる職員集団づくりを推進し、OJT を意識をした取組を行う。

②服務規律の確保

- ・服務規律の確保に努め、学校に対する信頼を更に高めるように努める。
- ・会議の冒頭で服務規律に関する研修の機会を設け、職員の意識を啓発する。
- ・困った時は、お互い相談できる風通しの良い職員室経営を行う。

③人事評価制度の活用

- ・人事評価制度の適切な推進により、学校経営参画意識を高め、職能成長を図る。

④人権意識の向上

- ・教職員自らが人権文化の担い手として模範となり、児童が「自分は大切な存在」として認められていると実感できるような環境づくりに努める。

(6) 教育環境の整備・充実

①業務改善の推進

- ・分掌組織の見直し、学校行事の精選、環境整備、会議の効率化等により、業務改善を進める。
- ・校務の効率化を進め、教育環境の向上と教職員の勤務状況の改善を図る。
- ・在校等時間記録を活用した勤務時間の適正な管理により、職員のワークライフバランスやメンタルヘルスへ配慮する。

②学校施設・設備の充実

- ・ICT を日常的に活用した教育活動を推進するための環境・設備を充実する。
- ・現在ある教育資源を最大限に活用することで教育環境を整え、高田小の教育の充実を図る。

(7) 家庭・地域との連携・協働

①コミュニティスクールの推進

- ・学校経営方針を十分理解してもらい、家庭・地域とともにある、魅力ある学校づくりを推進する。
- ・開かれた教育課程の実施を目指し、地域の人的、物的資源の活用を推進する。

②積極的な情報発信

- ・Web ページや各種便りを活用し、家庭・地域への積極的な情報発信を行う。

4 本年度の重点

(1) 確かな学力の向上

- ①児童が「何のために学ぶのか」を考え、わかったを実感できる授業を目指す。
- ②授業構想力・実践力の向上に繋げる研修の充実を図る。

(2) 発達支持的生徒指導の充実

- ①縦割り班活動等、学年を超えて繋がる人間関係の充実。
- ②児童が「自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す」場面設定を様々な教育活動に取り入れる。

(3) 家庭・地域との連携

- ①コミュニティスクールの仕組みを生かし、教育活動の充実に向け、地域の人的・物的資源を積極的に活用できるよう地域との連携を深める。
- ②信頼される学校づくりの為、各種便りや Web ページ等を活用した積極的な情報発信を行う。